

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170200760), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホーム すぎの子の家), 所在地 (札幌市東区東苗穂3条1丁目10-2), 自己評価作成日 (R 2年 1月 6日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者ひとりひとりの思いに寄り添い、その人らしさを大切にしたいケアを目指し、日々努力している。基本である「相手の立場に立って考えること」、「自分が嫌と思う事はしないこと」、「相手の良い所を探すこと」を基に、入居者の言動を分析し、考えることが出来る介護を目標にしている。離職者も少なく安定した事業所として委員会活動、係活動、勉強会などを活性化し、さらなる質の向上を常に目指している。入居者の思いを大切にするための「つづやき記録」をより発展させ、より簡潔で、活用できるものを目指し、日々努力を続けている。在宅支援診療所や管理栄養士・言語聴覚士などと連携しながら安心して生活でき、また看取りまでしっかりと対応できる事業所を目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyvoCd=0170200760-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1. ホームの環境と介護機能と設備; 東苗穂の閑静な住宅街にあって生活の利便性も良い。法人の組織的技術連携と共に支援し、密度の高い介護設備・機能を活かしている。
2. 職員の介護姿勢・態度; 職員は介護技術のさらなる研修に励み、利用者介護とともに家族への最適な報告・連絡等家族支援にも真摯に対応。データによる実証的支援に努めている。
3. 家族等の支援への好感度; 利用者の心身の変化に対する即応性や家族への迅速な連絡等、利用者に対して、職員がまず何を為すべきかに専念する姿勢に家族は高い好感を示している。
4. 運営推進会議の開催状況; 会議は定例に開催し、課題等の資料を明示して関係機関・家族等の参加者に伝え、参加者の意見等を運営の実際に活かしている。
5. 地域組織・機関等の関係; 地域には高齢者が運営する集いの場が開かれるなど、近隣の支えと共に、専門関係機関との人的・技術的連携で支えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念や年度目標を基に皆の意見を取り入れ作成し、共有し、実践へとつなげる努力をしている。	法人の理念に基づき「ゆっくり・いっしょに・楽しく・豊かに」をモットーに、職員が理念を共有して利用者本位の介護姿勢で、真摯な介護支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶から始まり、考流学舎との交流やウエスの会を通して、地域の方との交流も増えてきている。 また行事に地域住民の方の参加もある。	地域の高齢者が運営する「交流学舎」の集いは、誰もが参加できる楽しみの場であり、地域行事等と共に地域のオープンな雰囲気醸成してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	簡略化した認知症サポーター研修を開催したり、地域の方の声に答えるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの日々の生活状況を報告し、家族からの意見・希望を聞ける場となっている。	会議は定例的に開催され、日常の運営状況の課題を資料で説明している。参会者(家族・地域組織・包括支援センター等)の他に、議事録を送り、家族の意見を運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席、また必要時には連絡をとり、協力関係を築くようになっている。	行政査察の機会もあり、定例業務報告等と共に現場での実際を報告し、適切な示唆を得ている。定例の運営推進会議での包括支援センターの参加は専門機関の意見を聴ける機会としている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、現状を確認し合っている。 また外部研修にも参加し、伝達研修も行っている。 ヒヤリハットは、1日1枚を目指し取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会では身体拘束の概念を理論的に把握し、職員は共有に努め、外部研修等の学習内容の職員間の申し送りのも、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にさり気ない日々の言動に注意し、防止に努めている。 気になる言動については、その場で注意指導し、必要により皆で考える場を持つようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々学んでいるが、活用できるレベルには、到達できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の時点から十分な説明を行い、契約するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通して意見・要望を聴いている。 また家族来訪時には個別で意見交換を行い、検討し、運営に反映させるようにしている。	定例推進会議での家族の意見聴取や、家族が来訪時の報告や要望の情報交換等で、利用者個々の状況に応じた対応のあり方について語り合い、合意を得て支援に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課での個人面談や日々の送り、カンファレンスなどで出た意見・提案をしっかり受け止め、反映させるように努力している。	年2回、法人の人事考課は様式に従い、パソコンにより職員の業務上の意向を記述し、上司との個別面談で相互の評価を確認し、到達可能点を合意して、自らも業務に反映するよう勧めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で評価するとともに、個人目標を設定し、達成に向け、支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務を通して、個人の課題や事業所としての課題を見出し、課題解決に向けての対策を考え、提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の合同研修会や委員会活動を通して交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やケアマネ、サービス事業所からの情報を収集している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から、ゆっくりと家族の思いを傾聴し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	収集した情報を基にアセスメントし、初期プランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者としての視点を忘れずに、国際生活機能分類(ICF)の視点を念頭にケアを提供している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れて、日々の生活状況をすべて伝える中で、家族の思いや過去の生活状況などを聴き、協力を依頼するなどして、共に支える関係を築く様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り来訪していただけるように取り組んでいるが、なかなか来訪されない家族もいる。	家族の来訪の機会を待ち、かつ促して、家族間の談話の場とするとともに、関係支援の継続等を支援している。困難な例も少なくない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティや家事活動の参加など、入居者同士・職員と一緒に、想いを共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受けたり、支援する事もある。 また退去後もホームの事を気に掛け、来訪される家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聞き出す用心がけている。 直接表現できない入居者も「つぶやき」から考え、把握するように努めている。	日常の個人介護記録から、利用者の声の記録が多く収録されている。支援の力点の一つの表れであり、「つぶやき集」は貴重な記録に基づく意向把握と支援の在り方を示している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族には「情報収集シート」の記入を依頼し、サービス事業所からの情報などを基にインフォメーションシートを作成し、入居者理解に活用している。 入居後1か月ほどは、情報収集シートを作成し、得た情報の共有を目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の送りが、単なる業務の送りとならない様に入居者の状況の把握と伝達を主として行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を大切に各担当者と計画作成担当者がプランを作成している。 状況により皆でアセスメントしたり、プラン内容を検討している。	担当者制による定例カンファレンス会議等のデータに基づき、本人・家族の意向を取り入れて、各職員の意見等を含め、専門職の計画作成者とともにプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録が「見える」「伝える」「使える」記録となるように日々取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人のNPO団体との交流やサロンの活用など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に行事や避難訓練、運営推進会議、ウエスの会に参加していただき、ホームへの理解を深めていただくようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療時は、職員が対応し、状況報告している。 他医療機関受診時は、職員が付き添い、手紙もしくは口頭で状況報告を行っている。	利用者個々のかかりつけ医の在り方を家族と共に協議して、選択していただいている。多くが、近くの診療支援センターを利用。他機関受診にはホームが支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常と違う変化を察知し、医療サイドに伝える様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書と口頭での説明で正確な情報を提供している。 入院中は、できる限り面会し、状況の把握に努め退院後の生活に備える様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に説明し、様態に変化が生じた時に都度確認している。 また常に医療と連携しながら、家族も交えて、今後の方向性を確認している。	重度化・終末期の在り方については入所時点で「対応指針」を明示して、対応の具体化を合意し、変化の事態にはその都度関係機関と共に協議を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から勉強会やカンファレンスで知識を確認するとともに、毎日の送りでも再度確認し、不安の軽減に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、消防からの指導も受けている。 法人の事業継続計画(BCP)に基づき、ホームのBCPも作成している。	定期的な想定訓練を防災機関と協議の上、実施している。内部の組織的対応、地域との関係機関の防災計画対応にも留意し、かつ備蓄等にも配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの気持ちや思いをたいせつにした言葉掛けや対応をしている。	利用者の個別性は介護支援の最重要事項として捉え、個々の表情・言葉・動作等を観察し、傾聴し、尋ねて、その意向把握に留意し、記録して、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「チョイス」を取り入れ、些細なことでも入居者が自身の思いを表すことが出来る場面を提供するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を終えることが主とならない様に、DTの考えを取り入れ、その人らしさや個人の楽しみを考えて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り「洋服」を選ぶことが出来るような機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好も出来る限り考慮するようにしている。嚥下状態についてもSTの協力のもと安全に飲食出来る様に支援している。	食事は個々の嗜好や心身の状況に応えられるよう配慮するとともに、言語聴覚士の協力を得て、嚥下状況の安全に留意するなど、楽しい食事の機会・場となるよう、支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関や栄養士とカロリーや水分量など目標値を設定し、それを念頭に食事・水分の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。必要に応じ「歯間ブラシ」「スポンジブラシ」を使用し、清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるように支援している。	排泄の自立支援を基本にして、職員相互の情報共有を図り、個々に応じた声掛けや、備具等の支援の在り方などを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の入居者が多いため「冷牛乳提供」「運動」「腹部温電法」など行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の朝の打合せで、入浴について検討し、本人の体調・希望に寄り添うことが出来る様に努めている。	当日の個々の心身の状況等を考慮して職員間で協議しながら、本人の気分や希望などに応じて、楽しい入浴支援となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて臥床時間を設けている。夜間良眠を促すため、午後からアクティビティなどを提供し、心地よい疲労感を得ることが出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師とも連携し、薬表での処方内容の把握や変更の把握などの周知徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体行事の他、DTの考えを基に日々の生活の中で楽しいと思えることが増える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機会は減少しているが、買い物や外出への支援は行っている。 自宅への外泊・外出も家族の協力のもと行っている。	高齢化や心身の状況に応じて、外出機会が少なくなる傾向にあるが、気分転換等を考えた買い物や季節の変化を味わう機会として支援している。また、家族の協力を得た外泊・外出を願っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理する事が困難になっている。 希望で少額のお金を所持している入居者もいるが、使用できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ホームの電話を使用し、家族と電話が出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り温度・湿度などにも配慮した環境作りを行っている。 季節に合わせた装飾で柔らかな雰囲気作りが出来ている。	ホームは2～3階にあり、閑静な住宅街を眺める環境にあり、室内はコンパクトに設えられた介護機能(トイレ・浴室)の利便性が良い。また、食堂と居間の空間は季節感ある彩りの飾りつけや南面の陽を楽しめる安らぎのある場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間であるが、今の座席の座り位置に配慮し、状況によっては、ひとりテーブルを利用するなどして、心地よい居場所の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのものを持参したり、本人の好みに合わせた居室空間を提供出来る様に工夫している。	個々の居室は家族の協力も得て、個々の生活での馴染み多い家族の写真・備品備具や飾りつけなどで、居心地の良い環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼り紙や表札をを活用し、入居者が出来る限り自分で行動出来る様に工夫している。		